

施設訪問記

地域の期待に応え得る職業訓練施設としての役割を担う 「山口県立西部高等産業技術学校」を訪ねて

職業能力開発総合大学校 渡邊 信公

1. 地域の状況と施設の概要

山口県は三方を海に囲まれ、瀬戸内海に面した山陽地方と日本海を望む山陰地方に地域的に分かれる。山陽側は良港が多く、また石油やセメントなどの化学工業を中心に第二次産業が発達してきた。山陰地方は水産業や林業など第一次産業の割合が高く、第二次産業も水産加工や造船など水産業と関連が深いものが多い。こうした産業構成の相違から山陽地方と山陰地方との経済格差も大きく、その是正のために道路の整備に力を注いできた。また企業誘致にも熱心で、自動車工場や大手電機工場も進出し、これら加工組立工場がその下請け企業とともに同県の雇用拡大に果たした役割には大きなものがある。

戦前、山口県内にはあわせて20の職業訓練施設があり、戦後、これらは職業訓練校に変わっていくが、やがて徳山市にある東部高等産業技術学校と、今回訪れた下関市の西部高等産業技術学校に統廃合された。西部高等産業技術学校(図1)は、1980年に宇部と豊北の両職業訓練校が統合されて発足した西部職業訓練校を前身とし、1990年に現在の名称に改称された。この間、時代の変化に合わせて科を新設し、現在11科から成る。

当校は敷地面積35,237平方メートル(うちグラウンド面積5,200平方メートル)、建物総面積11,954平方メートルという規模を持つ。建物は3階建ての本館棟のほか、平屋建て一部2階建ての2つの実習棟、3階建ての男子寄宿舎棟、平屋建ての成人訓練棟のほか、体育館、付属棟から構成される。2001年度の



図1 施設正面外観

入校者数は193名で、内およそ4分の1を女性が占める。

2. 各科の特色と訓練概要

西部高等産業技術学校は現在、自動車整備科、冷凍空調科、建築科、左官・タイル施工科、インテリア木工科、建築設計科、OAビジネス科、観光ビジネス科、電子機器科、配管科、エクステリア・造園科の11科からなる。これらは主に高卒の新規学卒者を対象とした普通課程と、主として高齢者、離・転職者、中卒の新規学卒者を対象とした短期課程に分けられる。それぞれの課程の科の特色と訓練概要を紹介する(数字は訓練期間および定員数)。

(1) 普通課程

① 自動車整備科(2年, 20名)

2級の自動車整備士養成課程である。県内にこの課程があるのは2ヵ所のみで、修了すると2級自動車整備士試験の実技科目が免除となる。自動車工学、



図2 エクステリア・造園科実習風景

整備法、検査法などの理論とともに自動車全般の整備作業、完成車の性能試験などの実技を履修する。

② 冷凍空調科（1年，20名）

空調設備の設計，工事やメンテナンスなどの技術や関連知識と建築設備全般について設計施工技術の習得を目指す。第2種電気工事士や2級ボイラー技士，3種冷凍機械責任者などの資格取得のためにも役だつ。

③ インテリア木工科（1年，10名）

家具や建具の製作に必要な技術の習得にとどまらず，インテリアデザインやCADについても学び，木工関連企業や室内装飾関連企業への就職を目指す。修了後2年間は木工加工用機械作業主任者技能講習科目の一部が免除される。

④ 建築科（1年，20名）

木造家屋を中心に，時代の変化に対応したさまざまな工法と関連知識を学ぶ。CADによる設計学習にも力を入れている。修了すると2年間は木工加工用機械作業主任者技能講習科目の一部が免除されるほか，2級建築士受験資格の実務年数7年が4年に短縮される。

⑤ 建築設計科（1年，20名）

建築に関する専門的理論とともに，設計，製図，パース，写図，透視図，測量作業，パソコンによる構造計算，CAD設計を学び，2級建築士の資格取得を目指す。修了すると2級建築士受験資格の実務経験7年が3年に短縮される。

⑥ 観光ビジネス科（1年，20名）

観光ビジネス科がある職業訓練施設は全国でも珍

しい。観光概論やホテル業務全般，旅行業務，簿記会計，英会話，ハングル語の基礎に加え，パソコン等の操作法を学ぶ。秘書検定3級，3級販売士，パソコン検定（表計算3級），ワープロ検定3級，簿記検定3級の受験対策としても有効である。

(2) 短期課程

① 電子機器科（1年，20名）

電気や制御に関する基本理論，パソコンの操作法，家電製品の取り扱い・修理調整・設置などの技能と関連知識を学ぶ。生活家電エンジニア，電話工事担当者，第2種電気工事士の受験対策としても有効である。

② インテリア木工科（1年，20名）

家具や建具の製作に必要な技術やインテリアデザインについても学ぶ。普通課程と比べ，実習に重点を置いている。

③ 建築科（1年，20名）

建築に関する理論全般，各種作業に必要な技能を習得し，施工ができることを目指す。普通課程と比べ，実習に重点を置く。修了すると2級木造建築士受験資格の実務経験が短縮される。

④ 左官・タイル施工科（1年，20名）

建築に関する理論とともに，木造家屋から大型住宅までの左官・タイル作業に必要な技能全般の習得を目指す。実技主体の学習である。

⑤ エクステリア・造園科（1年，20名）

建築や左官・タイル，エクステリアに関する知識を学ぶとともに，実技主体の学習で，ブロック積み，門・塀の施工，庭園管理作業などを学ぶ（図2）。

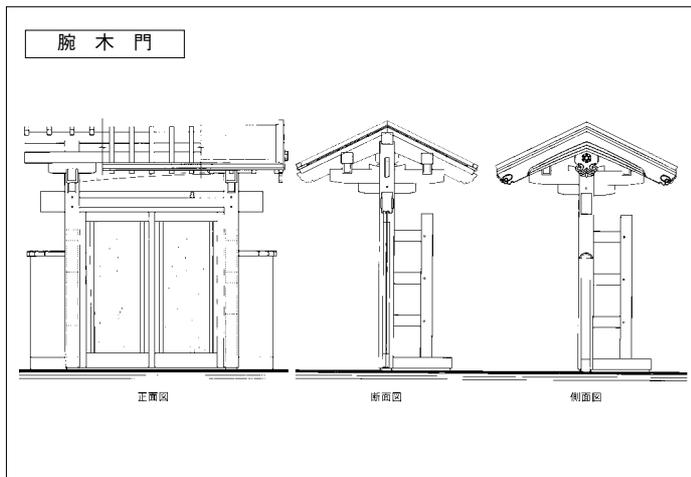


図3 腕木門図面（厚生労働大臣賞特選受賞作品）



制作作品



⑥ 配管科（1年，20名）

冷暖房や給排水管設備，ガス設備などに関する理論と実技を学び，ボイラーやパッケージ型エアコン，衛生器具などの設置，配管施工，メンテナンスなどができることを目指す。液化石油ガス設備士，2級ボイラー技士の受験対策も行っている。

⑦ OAビジネス科（6ヵ月，20名）

経理事務，パソコンの操作，ワープロによる文書や表の作成について学習する。簿記検定2級，ワープロ検定2級，パソコン（表計算）検定2級の受験対策も行っている。

以上の普通課程と短期課程は常設されているが，このほかに臨時にパワーアップセミナーとして，数十時間から数ヵ月の期間で離転職者や高齢求職者，あるいは新規学卒未就職者などを主な対象とした，各種科目を設定している。2001年度のこれらの実施科目は，不動産実務科，建設機械運転科，庭園管理科，ファッションサービス科，介護実務科（以上離・転職者や高齢求職者を対象），OA基礎科，OA事務科，IT基礎科（以上，主として新規学卒未就職者対象）がある。

3. 外部からの高い評価

日本は今なお不況の真ただ中にあり，雇用情勢も目だった改善が見られない。山口県の2002年2月の有効求人倍率が0.60倍と全国0.50倍より高い数値

を示し，都道府県のなかでも比較的上位にあるが，厳しい雇用情勢にあることはかわらない。

貞弘校長は「こうした厳しい状況にこそ，職業訓練施設が果たすべき役割は大きい。わが校の機能を十分活用し，地域のみなさんの期待に応えていきたい」と話している。

訓練生たちもこうした校長の意気込みに応えるように，熱心に学習に取り組み，優れた技能を習得している。例えば2001年度全国総合技能展の建築関係作品部門で，同校の建築科が制作した「腕木門」（図3）が「技能レベルが高く，芸術性も優れている」との評価を受け，見事「厚生労働大臣賞特選」に選ばれた。また普通課程の自動車整備科修了者の2級自動車整備士試験合格率は毎年100%近く，業界からの評価も高い。

貞弘校長はこうした評価に甘んじることなく「技術は日進月歩で進んでいる。職業訓練施設は，このような時代に対応して変化していく必要がある。民間との人事交流を活発にし，企業のニーズを的確にとらえ，それをできるだけカリキュラムに生かして，産業界の期待に応えることができる人材を送り出したい」と語り，西部高等産業技術学校の将来像を思い描いている。このような訓練施設の確かな技術力と前向きな姿勢は，外部産業界から高く期待されており訓練内容の充実が強く感じられた。